

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	砂防(通常砂防)		路河川名等	大沢				
事業毎の通番	3	市町村名	大桑村	箇所名(ふりがな)	和村(わむら)			
事業目的	本溪流は、脆弱な花崗岩から成る流域面積1.41km <sup>2</sup> の土石流危険溪流(ランクⅠ)であり、上流域には崩壊地が存在し、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、豪雨等により土石や倒木が流出する恐れがある。また、避難路となっている村道が土砂災害により遮断されると、集落が孤立化する恐れがある。そのため、砂防堰堤2基(透過型堰堤)を整備し、人家39戸(孤立集落含む)、村道(避難路)を保全する。							
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家39戸(孤立集落含む)、村道(避難路)							
着手年度	H27	事業期間	H27~H32	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	H32	費用対効果	2.3		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 2基 (1号堰堤)H=11.5m L=53.5m (2号堰堤)H=8.5m L=45.0m			300,000	150,000		135,000	15,000
年度事業内容(主な工種)	地形測量、地質調査、詳細設計 一式			0				
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家39戸(孤立集落含む)、村道(避難路)						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	【保全家】 4戸(孤立集落含む 39戸) 【保全公共施設】 村道大沢線 【災害時要援護者関連施設】 なし 【避難場所・避難路】 村道大沢線(避難路)						評価
	重要性	【過去の災害履歴】 なし 【交通影響】 村道大沢線(避難路) 【地域防災計画位置付け】 地域防災計画に位置付けあり(土石流危険溪流)						評価
	効率性	【費用対効果】 2.3 【早期効果発現】 事業期間:6年 【工法等比較検討】 堰堤配置・形式等について比較検討あり 【流域の総合調整】 治山事業と調整中						評価
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(花崗岩) 【流域植生】 倒木多数 【平均溪床勾配】 勾配:11.3° 【土砂整備率】 0% 【危険地区】 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり						評価
	計画熟度	【情報共有】 関係者を中心に周知 【地域要望】 地元要望があり協力的 【地域合意】 事業目的について合意形成が図られている 【住民参加】 土砂災害の防災訓練を実施						評価
	部意見	当該溪流の保全対象には、避難路が含まれており、土砂災害により集落の孤立化の恐れもあることから、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	保全対象に人家、村道があり、上流域には崩壊地が存在し、溪床には不安定土砂が堆積していることから、緊急性が認められる。	評価結果	総合評価		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

位置図



【整備の必要性がわかる状況写真等】

保全対象



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本溪流は、脆弱な花崗岩から成る流域面積1.41km <sup>2</sup> の土石流危険溪流(ランクⅠ)であり、上流域には崩壊地が存在し、溪床には不安定な土砂が堆積しているため、豪雨等により土石や倒木が流出する恐れがある。また、避難路となっている村道が土砂災害により遮断されると、集落が孤立化する恐れがある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	避難路となっている村道が遮断されると集落が孤立化する恐れがあるため、地元住民から強い要望がある。
③事業説明等の経緯	平成25年度に実施した溪流調査時に関係者に説明を実施
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を極力抑えることを念頭におき、設計を進める予定
⑥地域活性化への影響と配慮	
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯: N35° 41' 56" 東経: E137° 41' 59"